

第5回少人数教育推進検討委員会（令和3年1月26日）の概要

議 事 I 少人数教育推進検討委員会報告書（案）について

〈委員の主な意見〉

（報告書の内容について）

- 3、4年生については、報告書案の内容の通り、少人数学級編成の推進を前提としながらも、25人学級編制導入の検証、並びに国の動向を踏まえて更なる検討が必要である。
- 1、2年生の25人学級から、3年生の35人学級になる場合10名の差が生じるため、学年間の接続に課題がある。報告書案には、30人という具体的な数も委員の意見として示されているので、今後の検討の指標となる。
- この検討委員会の中では、予算関係の話とは分けて、純粹に少人数についてどういうふうにか考えるかという共通認識の下に議論を進めてきたが、今後の課題として、加配教員などの教育関係予算を削減することのないようにしてほしい。
- アクティブクラスについては、現行の制度を存続させながら、少人数教育推進の議論において、引き続き検討を行う必要がある。
- 低学年でのアクティブクラスの範囲が26人から35人と示されているが、学校現場で入学当初から低学年、中学年への接続を考えたときに、より細かい子供たちへの手立てや関わりが必要である。
- 少人数学級導入の検証の結果について、専門家の知見を得ながら多様な観点で分析しながら進めてほしい。
- 山梨県は、国に先駆けて少人数教育を推進している。更なる少人数教育の推進に関わる取組を広く県民に周知することが大切である。
- 学校現場においても、25人学級編制導入の意義や目的について共通理解を図り、今後の効果的な活用を考え進めていくことが大切である。

（全体を通して）

- 今後の少人数教育の推進を検討するにあたり、学校現場の声を反映できるようにしてほしい。
- 県民へのアピールとして、教員の頑張りや努力、コロナを通じた様々な教員の苦勞などについても発信してもらい、また、効果検証ではギスギスするのではなく、

良い面や課題など、それらを広くとらえてもらいながら、今後の推進を進めてほしい。

- みんなで山梨県の子供たちを育てていくということをもっと発信して、保護者を含めた県民の方々がもう少しこのことの課題を分かってもらえるようになればよいと思う。
- これからの少人数教育によって、子供たちがよりきめ細やかな教育を受けられるかどうかは先生あってのことだと思う。先生たちが気持ちよく、子供たちに勉強を教えていただけるような環境を整えていただくことが保護者にとっては一番望ましいと思う。
- 児童数が減ることによって学級が少なくなったからといって、教員の数を減らすということではなく、さらに充実させていく方向でやっていくべきであることを、この会の参加を通して感じた。

議 事 II その他

〈委員の主な意見〉

- 複式学級編制の対応など、小規模校への少人数学級に対しての配慮について検討する機会を持って欲しい。